

「ダイヤモンド・プリンセス」の教訓、国内対応に生きる-自見はなこ・厚労政務官に聞く◆Vol.4 「G-MIS」と「HER-SYS」、新型コロナ情報管理を一元化

インタビュー 2020年7月29日(水)配信 聞き手・まとめ：橋本佳子 (m3.com編集長)

【自見はなこ厚労政務官に聞く】(2020年5月から6月にかけて複数回インタビュー)

- Vol.1 政務官が語る「ダイヤモンド・プリンセス」の真実
- Vol.2 感染制御は成功、船由来のウイルス国内流行せず
- Vol.3 「誤解」と「根拠ない批判」、差別や偏見も
- Vol.4 「ダイヤモンド・プリンセス」の教訓、国内対応に生きる
- Vol.5 新型コロナ対応、都道府県格差が鮮明に

—「ダイヤモンド・プリンセス」での対応は、その後の国内感染の備えにつながった。

その通りです。いろいろな批判はありますが、「ダイヤモンド・プリンセス」を経験せずに、4月の第2次の感染のピークを迎えていたら、対応は全然違ったと思います。

一つは感染対策。感染症を専門とする先生方は、「ダイヤモンド・プリンセス」への対応で、**新型コロナウイルス感染症**に対する数多くの知見を得ることができたと思います。次に、今回はDMATの先生方が担当していただき、今は都道府県や保健所が担当されている搬送調整の在り方。患者さんを受け入れる側では、地域の医療体制や看護体制などについて知見を得、症例経験を通じて治療のノウハウも蓄積されました。さらにはDPATの先生方が担ってくださった心のケアの大切さ。そして情報管理の在り方。

ニューヨークやイタリアなどでは、いきなり患者さんが増加して、パンデミックになり、医療体制が追い付かなかった。ベッドや人の配置を検討する時間がありませんでした。しかし、日本では、「ダイヤモンド・プリンセス」の患者さんを各地域で診てもらったことで、十分とは言えないまでも国内でパンデミックが起きる前に行政を含めて準備を進めることができたのです。



3月25日、「新型コロナウイルス感染症に関する全国知事会と厚生労働省との意見交換会」。全国知事会新型コロナウイルス緊急対策本部長の飯泉嘉門徳島県知事、本部長代行の平井伸治鳥取県知事、副本部長の西脇隆俊京都府知事と黒岩祐治神奈川知事が出席。(提供：厚生労働省)

—感染対策では、具体的にどんな教訓を得たのか、もう少し詳しくお教えてください。

「ダイヤモンド・プリンセス」の患者さんを数多く受け入れた一つが、自衛隊中央病院です。ホームページには素晴らしい報告書を掲載しています。例えば、中等症で呼吸管理が必要な方に対して、ICUや陰圧室以外で「ネーザルハイフロー」(Nasal High Flow)を使う場合、その時に出るエアロゾルをどう管理するかをまとめています。

国内では今、院内感染や高齢者施設内での感染が問題になっていますが、新型コロナウイルス感染症は、かなりの頻度で接触感染で広がるケースが多い。この辺りも「ダイヤモンド・プリンセス」の経験で明らかになっています。

私たちは、「ダイヤモンド・プリンセス」対応中、厚労省職員ら数名を感染させてしまいました。それは今も私の心に、ものすごく重くのしかかっています。彼らは初期から対応に当たった職員で医療職ではありませんでした。ある日、医療機関だけでなく、自治体職員などにも感染者が出るかもしれません。

医療従事者であれば、ごく基本的にも実施することも教えていなかったと反省しています。明らかに接触感染しています。例えば、患者さんの荷物に触れた。その手で、自分の携帯やパソコンを触った。その手でペットボトルを取り、マスクを取って飲んでしまった。食事の前は必ずマスクを取って、ちゃんと手を洗って、もう一度、食事の前に手指衛生をする。食べ終わったら、マスクをして口の周りは触らない。手を洗う。これだけで全く違うと思います。

しかも、近隣のテーブルで仕事をしていた方々です。従って、ナースステーションなどで、密集して話さないことも大切です。スマートフォンも含めて全てのものにウイルスが付いていると思っていた方がいい。エレベーターのボタン、トイレのドアのノブ……。私は消毒用のジェルを持って、1日3回は対応に当たる事務系の職員のところを巡回していました。

——医療提供体制については、新型コロナウイルス感染症の患者さんを診るICUの点数が2倍になり、加算も付きました（『入院料を2倍に、ECMO等が必要な新型コロナ患者対象』を参照）。

ICUでは看護師2人で1人の患者さんを診ていますが、新型コロナウイルス感染症の場合、感染管理に手間がかかることなどもあり、だいたい6人で診なければいけないと試算した病院もあります。あるいは患者さん1人をICUで受け入れると、6人前後の患者さんをICUから退室してもらわないといけない。これが診療報酬での評価に生きているのです。

それから情報管理。誰がPCR検査陽性者であり、今入院しているのか、宿泊療養かなど患者さんの名簿の管理の重要性も、「ダイヤモンド・プリンセス」で痛感しました。

まず約8000の病院のデータベース化も早急にやらなければいけない。橋本副大臣と私は、下船後すぐに日本医師会に行き、「新型コロナウイルス感染症に対する医療機関のデータベース化をしなければ、とても全国の対応はできませんので、やらせてほしい」とお願いしています。加えて、全国知事会を含めて全国の行政、医療関係者と同じテーブルで話す必要がありました。

3月24日に厚労省と医療関係団体と協議を実施、翌日に全国知事会との意見交換会も開催しています（『全国知事会が「緊急提言」、重症者に重点置く体制整備など要望』を参照）。その場でも情報の一元化の必要性を訴えました。「EMIS」（Emergency Medical Information System）に倣って、「G-MIS」（Gathering Medical Information System）とネーミングし、既に立ち上がって大きな機能を果たしています。

院内感染が生じると、外来や救急、入院機能が低下し、地域医療に与える影響が非常に大きい。その現状を把握するのが、「G-MIS」の一番の目的です。かつマスクなどの个人防护具の不足状況の把握。この1カ月間で利用者が増え、8000病院強ある中で、約7000病院が登録済みです。一般の方には、「G-MIS」の一部の公開情報しか閲覧できないのですが、アクセスは非常に多いとのこと。自分の地域の病院が機能停止しないかをチェックしているようです。

「G-MIS」は日次、もしくは週次で入力してもらう項目があります（厚労省のホームページを参照）。（5月に新型コロナウイルス感染症治療薬として保険適用となった）レムデシビルも、このデータベースに必要量を入力してもらった上で、配布先を決定しました。

——「G-MIS」は、もっと早く立ち上げることはできなかったのですか。

正直に言えば、劇的に早いと思います。普段でしたら、運用開始まで2年はかかる話だと思います。医療機関の理解、協力だけでなく、病院データの収集は都道府県に権限があるため、国がやることへの了解が必要だったのです。これはクラウドサーバー上にデータを集めているので、都道府県ともデータを共有しています。今は政令指定都市でも閲覧などができるように、システム改修を行い、利便性を向上する努力を重ねています。

さらに保健所の情報を収集する「HER-SYS」（Health Center Real-time Information-Sharing System on COVID-19）も立ち上げました。5月15日から試験的に一部の保健所で運用を開始し、5月29日からは全国で、準備の整った保健所・自治体から利用を開始しています。保健所や帰国者・接触者外来からのPCR検査件数や陽性件数、入院患者数、重症患者数、さらに宿泊療養や自宅療養中の患者数などをほぼリアルタイムで把握できるようになります。医師会等で受託していただいているPCR検査センターのデータも入る予定です。これらの情報は、国も、都道府県も見ることができます。全国の感染状況を把握でき、恐らく来るであろう次なる波への備えなどもできるようになります。

その他、自宅・宿泊療養をしている患者さんが自宅から自分の健康状況を入れることができるシステムも内蔵しています。6月中旬に移行支援を大々的に行うこととしており、過去分の入力打ち込み業務の代行も保健所の負担軽減の視点に立ち行って参ります。

—緊急事態宣言をはじめ、対策を講じるためには、PCR検査数や陽性者数などを迅速かつ的確に把握する必要がありますが、それができているとは思えません。

確かにその通りで、これまでエクセルとファクス、メールでやっていました。ようやくIT化にこぎ着けることができます。3月下旬から、現場からの感染者数等の報告が午前0時を超えても、来なくなっていたのです。それだけ保健所の皆さんが疲弊していた。それを厚労省職員が徹夜で待っており、取りまとめていた状況で、あまりに関係者が気の毒でした。SOSすら出せない状況でした。HER-SYSを作るきっかけはここからでした。

—今は緊急事態宣言下ですが、宣言解除したり、入国制限を緩和すれば、再び感染が拡大する懸念があります。

「後発の利」もあり、これまでIT化していなかったのも、まさならなところから、「G-MIS」や「HER-SYS」を作ることができたのです。いつの間にか日本はすっかりデジタルの世界から取り残されていたのを、痛感しています。この2本柱でかなり一元的にデータが把握できるようになると思います。今後は、年単位になるであろう水際の段階的な解除や新たな生活様式の中での感染対策など「出口」を考えなければいけません。その際、必要な指標がリアルタイムで把握できるようにしておくことは大事なことです。

新型コロナウイルス 特設ページ

COVID-19

最新コロナ情報を確認



本記事をお読みになって、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する以下の設問にお答えください。

進捗ポイント 0ポイント

開示範囲等

本アンケートの結果は、個人情報保護方針および関係法規に準拠し、以下に活用する可能性がございます。

- ・個人が特定できない形で集計した結果の医療従事者への公開
- ・アンケート集計結果および/または回答内容と先生のご氏名・ご所属等情報のデータ活用企業への提供
- ・データ活用企業における販売情報提供活動

Q1 この記事は、新型コロナウイルス対策において、どれぐらい役に立ちましたか？（非常に役に立つ=10）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2 現時点の新型コロナウイルスに対する、ご自身の警戒レベルはどれぐらいですか？（警戒していない状態=0）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

上記個人情報の取り扱いに同意して送信